一般社団法人
日本ケーブルテレビ連盟

NEWS RELEASE

2013 年 9 月 27 日

一般社団法人　日本ケーブルテレビ連盟

第 33 回『地方の時代』映像祭 2013　開催概要について

「地方の時代」映像祭実行委員会（吹田市、関西大学、日本放送協会、日本民間放送連盟、日本ケーブルテレビ連盟）では、11月16日（土）から22日（金）の間、「第33回『地方の時代』映像祭2013」を関西大学千里山キャンパスで開催する運びとなりました。

この「地方の時代」映像祭は、1980年の開始以来、“地域のこころ、地方のこえ”をテーマに、優れたドキュメンタリーや映像作品をコンクールによって顕彰し、一般公開することで、「地方の時代」の具現化を目指しています。

第33回の今年は、「地域が伝えたもの、伝えていくこと」をサブテーマに掲げ、地域のメディア、各地の作り手がこの国のあり方を問い直していく作業を、私たちは、確かに、着実に、支えていきたいと考えております。

つきましては、映像祭の概要と、コンクール応募作品の中から選ばれた入選作品について、添付のとおりご案内申し上げます。

添付資料　①第 33 回「地方の時代」映像祭 2013 の概要
②第 33 回「地方の時代」映像祭入選作品紹介資料
③「地方の時代」コンクール参加状況

～本件に関するお問合せは下記までお願いいたします～

一般社団法人　日本ケーブルテレビ連盟　<http://www.catv-jcta.jp>
コンテンツ・ラボ　担当／中田・糸田　TEL：03-3566-8200

※「地方の時代」映像祭に関するお問合せ先
「地方の時代」映像祭実行委員会事務局
〒530-0047 大阪市北区西天満 3 丁目 6－28 オクタス西天満 3F
TEL：06-6363-3874（代） FAX：06-6363-3425 http://www.regionalism.jp

第 33 回「地方の時代」映像祭2013 の 概要　　2013. 9. 27.

第３３回「地方の時代」映像祭２０１３は、「地域が伝えたもの、伝えていくこと」をサブテーマに、来る 11 月 16 日（土）～22 日（金）、関西大学千里山キャンパスで開催されます。

大会スケジュール

11 月 16 日（土）

12 時 30 分～14 時　　第 33 回「地方の時代」映像祭コンクール贈賞式

今年のコンクール応募作品は、放送局部門 116（昨年比-7）、ケーブルテレビ部門 56（昨年比＋16）、市民、学生、自治体部門 60（昨年比＋19）、高校生部門 26（昨年比＋8）の合計 258 作品　（昨年 222 作品+37）。この中には中学校からの応募が 1 作品ありました。応募作品数は過去最高です。

これら 258 作品の中から、三次にわたる審査で、入賞26作品（資料1）が選考されました。

贈賞式では、これら26作品の中から、各部門の「優秀賞」「選奨」「奨励賞」を発表、最後に「グランプリ」（副賞 100 万円）を発表、表彰します。

14 時 10 分～14 時 50 分　記念講演

「 3・11 後の地域メディアの役割（仮題）」　作家・映画監督　森達也さん

東日本大震災から 2 年 8 か月、未曽有の災害と福島原発事故はそれらを伝えるメディアの側にも多くの課題を突き付けました。進まない復興、汚染水問題、避難者がなお 10 万人を超える現実の中で、メディアに問われているものは？ 3・11後のいま、地域メディアが果たすべき役割を考えます。

15 時～16 時　グランプリ受賞作品上映

16 時～18 時 30 分　シンポジウム「～テレビ 60 年～地域が伝えたもの、伝えていくこと」

今年はテレビ放送が開始して60年目にあたります。この間、地域のテレビ局はどんな役割を果たしてきたのか、また、これからどのような役割を果たすべきなのか。テレビに関わってきた研究者、制作者、出演者が話し合います。

司会・コーディネーター：　吉岡　忍さん（作家）

パネリスト：森　達也さん（作家・映画監督）

阿武野勝彦さん（東海テレビ）

中崎清栄さん（テレビ金沢）

谷　雅徳［越前屋俵太］さん（関西大学客員教授）

吉岡　忍（ノンフィクション作家）

雑誌、テレビで活躍。著書に「M／世界の憂鬱な先端」「墜落の夏－日航 123 便事故全記録」「奇跡を起こした村のはなし」「ニッポンの心意気－現代仕事カタログ」など

森　達也（映画監督・作家）

「A」「A２」が話題となる。テレビドキュメンタリーに「放送禁止歌」「職業欄はエスパー」ほか。著書に「オオ様は裸だと言った子供はその後どうなったか」「死刑」「ドキュメンタリーは嘘をつく」など

阿武野勝彦（東海テレビ報道局専門局長）

「約束～日本一のダムが奪うもの」で 2007 年「地方の時代」映像祭グランプリ。「光と影～光市母子殺害事件弁護団の 300 日」「平成ジレンマ」「死刑弁護人」などをプロデュース。2008 年「放送人グランプリ」受賞

中崎清栄（テレビ金沢番組制作部）

地域に根ざしたドキュメンタリーを制作し続けたとして 2004 年放送文化基金個人賞。代表作に「ここよりほか行くところなし」「雑草の駅」「聞いてくたい」「笑って死ねる病院」「田舎のコンビニ」など。

越前屋俵太（本名 谷 雅徳）（関西大学客員教授、書家）

「探偵ナイトスクープ」初代探偵、越前屋俵太の「達者でござる」（福井放送）などで知られたテレビタレント。現在は芸能活動を休止し、書家・俵越山として活動、関西大学では「エンタテインメント論」等を講義。

11 月 17 日(日)

10 時 00 分～　ワークショップ　①～④

ワークショップ①　「高校生・大学生の映像制作」

映像祭コンクールで受賞した高校生・大学生の映像作品を振り返って、テーマの選択や制作手法等を語り合います。高校や大学で映像制作を学ぶことの意味も考えます。

ワークショップ②　「ケーブルテレビが目指す地域密着」

受賞した作品を材料に、ケーブルテレビ局の番組制作のあり方を考えます。

ワークショップ③　「地元を物語る――実践！　あなたもできる、ローカルの語り方」

多様で豊かな地域イメージを伝えるための新しいアプローチについて、具体的実践例を見ながら語り合います。

ワークショップ④　「映像を通じて見る日中の相互理解」

10 時 30 分～　受賞作品上映会

11 月 18 日(月)

↓

10 時 30 分～　受賞作品・参加作品上映会

受賞 26 作品のほか、一次審査を通過した約 80 作品を上映します。

11 月 22 日(金)

11 月 30 日(土)

14 時～17 時 30 分　グランプリ受賞作品を語る会　（関西大学東京センター）

第33回「地方の時代」映像祭2013

コンクール入選作品

～プレスリリース用資料～

平成25年9月27日（金）

「地方の時代」映像祭　実行委員会事務局
〒530-0047
大阪市北区西天満3丁目6-28
オクタス西天満ビル3F
TEL 06-6363-3874 FAX06-6363-3425
E-mail:info@regionalism.jp
http://www.regionalism.jp/index.html

第33回「地方の時代」映像祭2013
入選作品一覧

◆放送局部門

番号	部門	タイトル	団体名	収録時間
36-H-19	放送局	土からのごほうび～NO！合併と言った町～	福井放送	48 分
62-H-30	放送局	標的の村～国に訴えられた東村・高江の住民たち～	琉球朝日放送	47 分
66-H-34	放送局	にぎやかな過疎	テレビ金沢	49 分
72-H-39	放送局	シャッター　～報道カメラマン　空白の10年～	RKB毎日放送	79 分
116-H-70	放送局	死の棘～じん肺と戦い続ける医師～	静岡放送	47 分
144-H-86	放送局	ザ・ドキュメント「みんなの学校」	関西テレビ放送	55 分
153-H-92	放送局	戦後史証言プロジェクト日本人は何をめざしてきたのか「第2回水俣～戦後復興から公害へ～」	NHK福岡放送局	89 分

◆ケーブルテレビ部門

番号	部門	タイトル	団体名	収録時間
10-C-4	CATV	たっこたい	一関ケーブルネットワーク	30 分
88-C-15	CATV	果てしない祈り	長崎ケーブルメディア	45 分
138-C-27	CATV	神様の足になる！～戸畑祇園大山笠行事～	ジェイコム九州	43 分
150-C-30	CATV	四日市公害特別番組 「生きる」	シー・ティー・ワイ	90 分
168-C-35	CATV	はたらく人になろう　大垣特別支援学校2013卒業の春	大垣ケーブルテレビ	54 分
215-C-52	CATV	スタート～フリーキッズの子どもたち	伊那ケーブルテレビジョン	47 分
226-C-55	CATV	モノづくりの未来を担う下町ボブスレー	JCN大田ケーブルネットワーク	56 分

◆市民・学生・自治体部門

番号	部門	タイトル	団体名	収録時間
3-I-3	市民・学生・自治体	マイホーム	関西大学・映像制作実習	27 分
122-I-18	市民・学生・自治体	空に溶ける大地	国際環境NGO　FoE Japan	28 分
132-I-19	市民・学生・自治体	その妹～知的障害者を家族に持つということ～	法政大学　映像制作実習	17 分
179-I-21	市民・学生・自治体	GrayZone	成安造形大学 塚原真梨佳	12 分
244-I-50	市民・学生・自治体	“デモ割”うまれたよ	2012年OurPlanet-TV秋期生　デモ割チーム	18 分
256-I-62	市民・学生・自治体	ノネコの引越し作戦～海を越えて命を守る～	中央大学FLP松野良一ゼミ	10 分

◆高校生部門

番号	部門	タイトル	団体名	収録時間
55-K-5	高校生	地名を見つめる	大阪府立三国丘高等学校	23 分
83-K-8	高校生	なま部の日常	白陵高等学校	18 分
125-K-11	高校生	おじいちゃんと私	奈良女子大学附属中等教育学校・奥田組	11 分
199-K-18	高校生	もう一つの卒業式	埼玉県立川越高等学校	9 分
211-K-21	高校生	関係官庁に聞く　地震に関する二つの疑問	静岡大成高等学校	16 分
★ 260-K-26	高校生	カバンが重い	福岡市立野間中学校	6 分

※掲載はエントリー順とさせていただいております。

★ 260-K-26の作品は中学生の作品の為、暫定的に高校生部門として扱っています。

放送局部門

福井放送　[2013/5/30放送]

土からのごほうび
～ＮＯ！合併と言った町～

◎制作／井上寿美枝
◎演出／岩本千尋

[48分]

●制作意図

　人口減少・少子高齢化・財政難。今の日本が直面している課題を凝縮したような町、福井県池田町。人口は３０００人、その４割を６５歳以上のお年寄りが占めています。それでも平成の大合併、「ＮＯ！合併」をきっぱり宣言。自立の道を選びました。なぜか？その強さはどこから来るのか？そこを突き詰めてみたいと思ったのです。
　日本では、共同体を作り直す動きが出始めています。合併の弊害も聞こえてきます。そんな今、情報に惑わされず堅実に生きる人々の姿を描き出すことは、日本の未来を創っていく希望になるのではないかと考え、この番組を制作しました。

●あらすじ

　福井県池田町は農業を生業としてきた町です。自立の道を貫くならば、と目をつけたのが「土」と「お年寄り」でした。
　ばあちゃんたちの無農薬野菜直売店は、町の財政を支えるまでに成長。ばあちゃんたちは手間を惜しまず土を耕し、愛情を込めて野菜を育てます。ＴＰＰもなんのその、正直に米を作り続けることが日本の農業を守ると信じる米農家たち。そんな姿勢に憧れて、Ｉターンしてきた若者。行政も「人は財産」と考え、決して見捨てることはありません。
　「人間、最後は誰もが土に還る。だったら、しっかり地に足をつけて生きようじゃないか」。生き様からはそんなメッセージが伝わってきます。

放送局部門

琉球朝日放送　[2012/12/1放送]

標的の村
～国に訴えられた東村・高江の住民たち～

◎制作／謝花尚
◎演出／三上智恵

[47分]

●制作意図

１９９６年から政府が隠し続けてきた「オスプレイ沖縄配備」。それが２０１２年１０月、現実のものになってしまった。オスプレイの配備はある意味で基地問題の象徴。米軍の計画を日本政府が追認し、沖縄をごまかす手伝いも政府として進めてきたのだ。オスプレイの配備と住民の姿を通して、基地問題をめぐる日・米・沖縄の構図を暴く。

●あらすじ

米軍のヘリ着陸帯が自宅近くに建設されると聞き、予定地に座り込んだ東村高江の安次嶺現達さん達は、国に「通行妨害」で訴えられた。国が国策に反対する住民を訴えるという裁判。反対意見の封じ込めを目的に権力ある者が個人を訴えることを米国ではスラップ裁判と呼び多くの州で禁じている。戦後、人権が蹂躙され続けた米軍統治下の沖縄で住民が最後の抵抗手段にしてきたのが「座りこみ」だ。それを「通行妨害」で国が住民を裁判にかける手法が成立するなら沖縄の声はますます封殺されてしまう。ヘリ着陸帯は高江を囲むように6カ所造られる。そこにオスプレイが来ることを、15年以上隠してきた国が公表した。そしてオスプレイが姿を見せた。

放送局部門

テレビ金沢　[2013/5/28放送]

にぎやかな過疎

◎制作／平体好孝
◎演出／中崎清栄

[49分]

●制作意図

ＴＰＰ導入で、更に先が見えなくなった農業界。
世代バランスは崩れ、農業従事者の６割が６５歳以上の高齢者。
脆弱な農業と呼応して地方の過疎も深刻化している。
食料問題や農村の将来が心配になり、地方局として模索するが明かりが見えない。そんな中、7年前に始まった石川県羽咋市の「空き農家貸し出制度」 集落存続を願い、限界集落が若い農業希望者を受け入れ、人情豊かに「都会へ帰すものか」と世話をすると、移住者が荒土を耕し、祭りも復活。　集落に笑顔が増えた。過疎地の住民が、揺らぐ農政に見切りをつけて、前向きに取った行動は、移住の受けいれだった。過疎地の切り札となる移住と交流の大切さを伝えたいと制作した。

●あらすじ

　石川県羽咋市が、過疎脱却を願って「空き農家を斡旋するから」と過疎地の住民達に若者の受け入れを提案した。
限界集落の菅池町に屋後浩幸さんが、大阪から引っ越して有機農業を始めた。
自分たちと全く違う農法に首をかしげる住民たちに対し、都会では考えられない濃密な田舎風の接し方に戸惑う屋後さんだが、農地が思うように借りられない事も含め、収入が少なくアルバイトなしでは生活できない年月が続く。
それでも留まって農業を続けるのは、家族のように接する集落民の情愛があるからだ。
７年間で３組が移住し、子供の声が響くようになった過疎地は都会の若者を受け入れて、にぎやかになり始めた。

放送局部門

RKB毎日放送　[2013/6/9放送]

シャッター
～報道カメラマン　空白の１０年～

◎制作／神戸金史
◎演出／神戸金史

[79分]

●制作意図

ディレクターの私は、男と一緒に同じ新聞社に入社した元記者だ。男が撮ったがん患者のデスマスクは、新聞に掲載され大きな反響を呼んだ。そしてイラク戦争報道でも男は衝撃的な紙面を作ってきた。ずっと「この男の写真には心を打つ何かがある」と感じていた。
古巣の新聞社に頼み込んで写真の封印を解くのは、私にしかできないことだった。しかし、友の過去の罪を映像化するにはためらいがあった。現代的な意味を持ちえないなら番組化はしないと決めていた。
３・１１後、マスメディアへの批判が強まっている。番組は、この男の１０年をたどりながら、「人に伝える意味とは何か」「報道とは何のためにあるのか」を考えることにした。

●あらすじ

１０年前のイラク戦争当時、ヨルダンの空港で爆発が起き、６人が死傷する事件が起きた。爆発したのは、日本人カメラマンが持っていたクラスター爆弾だった。新聞社を懲戒解雇された男は、贖罪のためカメラを捨てた。人目を避け家族と国内を転々とし、アフリカに流れ着く。男は全てを失った。一体なぜ、爆発物を戦場から持ち帰ったのか？
時がたち、男は少しずつカメラを手に取るようになってきた。男にカメラを撮る資格はあるのか。何を撮るのか。それは誰のために？　この問いは「私たちのテレビカメラは、なぜこの男を撮るのか？」にもつながる。ジャーナリストの大谷昭宏・津田大介とともに「報道とは何か」を考えていく。

放送局部門

静岡放送　[2013/5/29放送]

死の棘
～じん肺と戦い続ける医師～

◎制作／鈴木宏典
◎演出／濱田彩華

[47分]

●制作意図

呼吸のできない激しい苦しみに襲われ、血を吐き、そして死んでいく…。今から３１年前、静岡放送は銅山の町として知られた天竜の佐久間町に暮す元労働者たちを蝕む「塵肺」の実態と治療に打ち込む青年医師の姿を描くドキュメンタリーを制作した。そして４半世紀の余、塵肺患者はどうなったのか？カメラは当時の取材箇所を再び辿り、かつての患者を再取材する。高度成長の陰で捨て置かれた塵肺患者の生活は？そして青年医師の今は？
取材を重ねると塵肺は決して過去の惨禍ではないことが明らかになる。労働災害としての塵肺の過去と現在を一人の医師の活動を通じて浮かび上がらせる。

●あらすじ

東京・芝の呼吸器専門病院では夜明け前から車が並ぶ。咳き込みながら診察の順番を取る男達は、霞が関ビルの建設労働者など日本を創った労働者だ。病院長の海老原勇は、最初の赴任地浜松市天龍区佐久間町で「久根鉱山」の労働者を侵す「塵肺」に遭い、患者救済をライフワークとした。以来４０余年海老原は、東京と佐久間と一週間を半々に分け、全国の塵肺患者に寄り添い続けている。海老原の気がかりは、塵肺が形を変え、労働者を脅かし続けていること。阪神淡路大震災の復興作業ではビルの解体時に出たアスベストを吸った労働者が死亡、さらに東日本大震災の復旧現場でも・・・。

放送局部門

関西テレビ放送　[2013/5/6放送]

ザ・ドキュメント
「みんなの学校」

◎制作／加藤康治
◎演出／真鍋俊永

[55分]

●制作意図

取材禁止は一切なし、全部取材を終えた後で、子どもたちのマイナスにならないように話し合う、そんな約束で取材は始まりました。「いろんな価値観が世の中にあることを教えたい」という校長が目指すのは、「誰もに居場所のある学校」です。みんなが同じ教室で学ぶ学校には視察も絶えず、ボランティアも出入り自由です。大きなカメラが学校にいても、意識ぜずに明るい表情を見せる子どもたちにつられて、大人や先生も自然に取材を気にしなくなって、作られた姿ではない学校の暮らしを写しとれたと思います。ぼかしも音声を変えることも一切なく捉えた「学校の一年間」を見て、教育や公立学校の在り方を考えてもらいたいです。

●あらすじ

普通の公立学校、大阪市立南住吉大空小学校は「みんなの居場所」を大事にしています。発達障害を抱えた子、自分の気持ちをうまくコントロールできない子など、いろんな理由で学校へ行けない子たちを教職員、保護者、地域の大人たちだけでなく、子供同士でも支えあっています。そんな大空小学校の子供たちや大人たちはみんなが明るい。子どもたちは「障害」ではなく、それぞれの「個性」と向きあい、尊重するよう教えられています。大空小学校のありのままの一年間に密着し、成長を追うことで、いまの大阪や日本が抱える教育問題とその問題を解決するために進められている教育改革のあり方について問い直す番組です。

放送局部門

NHK福岡放送局　[2013/7/13放送]

戦後史証言プロジェクト
日本人は何をめざしてきたのか
「第2回水俣～戦後復興から公害へ～」

◎制作／宮田興、石津雅、塩田純、岩下宏之
◎演出／吉崎健、東島大、田村圭香、杉本遥

[89分]

●制作意図

「戦後日本」は今大きな試練の中にある。この番組は「日本人が戦後何をめざしてきたのか」を地方の戦後史から見つめるシリーズの第2回として制作した。企業城下町・水俣の戦後から今に至る軌跡を、水俣病患者、チッソの元社員、幹部、一般市民、専門家など、様々な立場の人たちの証言をもとに多元的・複眼的に描き、人々がそれぞれの立場で水俣病とどう向き合ったのかを描いた。これまでテレビではきちんと報道されてこなかったチッソ元社員や一般市民、さらにテレビでの単独インタビューは初めてになるチッソ幹部の証言や認定審査に関わった専門家の証言などを新たに撮影し、地方から日本の戦後を見つめ直そうと試みた。

●あらすじ

戦前、日本の植民地・朝鮮半島北部で化学コンビナートや水力発電所など一大コンツェルンを築いた日本窒素肥料株式会社。敗戦後、命からがら引き揚げた千人を越える社員で水俣はあふれた。彼らが中心となり水俣工場の再稼働が始まる。チッソは戦後復興と食糧増産という国策と結びつき急成長。そして戦後１１年目の１９５６年、水俣病は公式に確認されたが、経済成長政策のもと対応は後手に回り被害は拡大。チッソの城下町だった水俣の運命も大きく変わっていく。戦後復興はなぜ公害へと至ったのか。患者、チッソ社員や幹部、一般市民、患者認定に関わった専門家など様々な人々の証言を通して多元的に迫り、水俣がたどった軌跡をたどる。

ケーブルテレビ部門

一関ケーブルネットワーク
[2013/4/20放送]

たっこたい

◎制作／千葉剛之

[30分]

●制作意図

・アナウンサーナレーションを一切排除
・音も基本的には現場音を使用
・無駄を省いた構成にする事により５０年後に見ても色褪せない、いや５０年後にこそ見てもらいたい映像資産にしたいと考えた。
・説明コメントが一切無いので、いかに映像や現場音だけで状況を説明するかに腐心した。

●あらすじ

閉校する一関市立達古袋（たっこたい）小学校の最後の一年をテレビカメラが見つめたドキュメンタリー番組。児童、先生、雨や風の音などの現場音がひとつの叙情詩のようにつながり、純真な子どもたちの姿が、見る人を惹き付けるー

長崎ケーブルメディア［2013/7/14放送］

果てしない祈り

◎制作／大野陽一郎
◎演出／御厨恵莉

[45分]

●制作意図

長崎県は「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録を目指しています。自然が豊かな外海地域には、明治以降に建てられた教会や潜伏キリシタンに関連する史跡が数多く残っています。近年、禁教下の潜伏キリシタンの墓碑群が、日本で初めて発見されました。この墓碑群が発見された垣内地区には、昭和４０年代まで潜伏キシリタンの信仰組織があったそうです。組織が消滅した後も、人々の心の中には「禁教時代も信仰を続け、生き抜いた先祖への尊敬や感謝」と「仏教徒を装った引け目」とが混在しています。信仰という形を超えて、人々の生活の中に今も生き続ける“先祖への複雑な想い”を記録として残すため、番組を制作しました。

●あらすじ

外海地域に住む人の中には、今も潜伏キリシタンの祈りの言葉“オラショ”を覚えている人や祈りの用具を大切にしている人たちがいます。松川隆治さんもその一人です。殉教を逃れ、仏教徒を偽り生き延びた潜伏キリシタン。その血を継ぐものとして、松川さんは外海地域の家を一軒一軒たずねて潜伏キリシタンにまつわる歴史をたどり続けています。キリスト教の布教と繁栄、約２５０年続いた弾圧と潜伏、そして復活。「キリシタンの里」と呼ばれる外海地域独自の歴史と文化、豊かな自然とそこに暮らす人々の想いを描きました。

ジェイコム九州　[2012/8/18放送]

神様の足になる！
～戸畑祇園大山笠行事～

◎制作／今石珠貴
◎演出／申相徹

[43分]

●制作意図

力強く！熱く！それして優美。それが戸畑祇園大山笠行事である。
200年以上受け継がれるこの伝統行事を地域密着のCATV局として地元目線で残したい。
祭りの表面的な華美に囚われることなく、その裏に綿々と息づく伝統の重みを映像で表現したい。
男衆が何故懸命に山を担ぎ、200年の伝統の重みを次世代にどのように伝えていくのか。
彼らを通じてその思いを表現できたらと思う。
今回、特に画期的だったのは、山笠にCCDカメラを搭載させてもらったこと。200年間で始めての出来事であり、通い詰め、信頼を得たことによる結果だった。
大山笠に乗った神様目線の映像を差し込むことで、迫力ある作品に仕上がったと思う。

●あらすじ

福岡県北九州市戸畑区で、毎年７月に執り行われている国指定重要無形民俗文化財「戸畑祇園大山笠行事」は、全国的にまだまだ知名度が低いが、地元でこよなく愛されている祭りである。
戸畑区内の飛幡八幡宮、菅原神社、中原八幡宮の三社からそれぞれの神様を乗せた山笠が男衆によって担がれ街を進む。
祭りの特徴は、昼の古式ゆかしい幟山笠が夜になると光のピラミッドに姿を変えること。その早変わりは、大きな見所でもある。
番組では、まつりのクライマックスとされる大山笠競演会のみならず、約1ヶ月にわたり祇園行事に従事する男衆に密着し、山笠に懸ける北九州、戸畑の男衆の熱い思いに迫った。

シー・ティー・ワイ
[2012年9月～11月放送]

四日市公害特別番組
「生きる」

◎制作／瀬古朋可、部谷真夕
◎演出／瀬古朋可、部谷真夕

[90分]

●制作意図

重工業化による町の発展と引きかえにもたらされた四日市公害。ＣＴＹでは、裁判の原告や当時の行政・企業関係者などを取材してきましたが、それは、「公害を忘れてはならない」という、いわば一般的な観点からでした。しかし、年月を経るごとに、綺麗事では済まされない実情や人々の葛藤を知る機会が増えていきました。地域には、口をつぐむ事や問題にしない事で、平穏を保とうとしている人もいますが、それでは何も変わりません。そこで、裁判の判決から４０年を機に、公害被害の甚大だった地域一軒一軒をまわり、聞き取り取材を実施しました。そこから見えてきた、ありのままの公害や四日市公害の今を、市民の目線で伝えようと制作しました。

●あらすじ

「四日市公害とは」「２人の男性にとっての四日市公害」「次世代」という３つの章からなります。第二章「２人の男性にとっての四日市公害」は、原告と原告に寄り添った男性の心に迫った内容で、本作の柱となっています。２人は、公害を包み隠さないことが未来の四日市につながると信じ、人生の半分を「公害」とともに歩んできました。番組には、「どんなに苦しくても生きることから逃げてはならない」というメッセージを込めています。

大垣ケーブルテレビ　[2013/3/11放送]

はたらく人になろう
大垣特別支援学校2013卒業の春

◎制作／大塚英司
◎演出／大塚英司

[54分]

●制作意図

実習先の社長のリップサービス「うちに来るか？」に、「考えておきます」と答えてしまう、一言多い男の子と、面接官から「自信があるところは？」と聞かれ、自信なさそうに「ありません…」と答えてしまう、一言足りない女の子。特別ではない、どこにでもいる普通の若者たちが社会へ飛び立つまでの１年間を、支援学校の中から見つめてみることにした。

●あらすじ

知的障害のある子どもたちが通う大垣特別支援学校。学校・家庭の温かいまなざしに見守られてきた子どもたちは、18歳になる年、人生最初の試練に立ち向かうことになる。社会に自立して生きるための、一般企業への就職活動。と言っても、リクルートスーツを着こなして企業を回る、それではない。“できることもある”ことを、見て知ってもらうため、工場や店舗へ、計１か月間の現場実習に赴く。番組は、彼らが「はたらく人」に変わる、小さな成長の瞬間をとらえた。

伊那ケーブルテレビジョン
[2012年9月、2013年6月放送]

スタート
～フリーキッズの子どもたち

◎制作／鹿児島洋一
◎演出／鹿児島洋一

[47分]

●制作意図

不登校や引きこもりなど様々な悩みを抱えている子供たちを育てているかあちゃん。宇津孝子さんとそこで生活する子供たちに密着しました。地元の人たちに知ってもらうことを目的に1年取材しました。
作品は、去年9月に第1弾を放送、今年6月に第2弾を放送しました。2つの作品をまとめました。

●あらすじ

不登校など様々な事情で子供たちを受け入れている宇津孝子さん。
子どもたちに生きる力を伝えたいとの思いで１０年前から寄宿生活塾フリーキッズヴィレッジをはじめ子育てを楽しんでいます。

JCN大田ケーブルネットワーク
[2013/7/15放送]

モノづくりの未来を担う
下町ボブスレー

◎制作／二宮正季
◎演出／市川浩岳

[56分]

●制作意図

ソチ冬季五輪に向けて、大田区を中心とした中小企業が協力して、国産初のボブスレー競技用ソリ「下町ボブスレー」を製作する。このプロジェクトのメンバーは、前例のないソリ作りを地域のネットワークで解決し、ソリ採用の決定権を持つ日本の連盟からの信頼を勝ち取っていく。「モノを作る人たち」が「作ったモノを使う」ことで、大田区全体に明るい風を吹き込む。独占取材多数。全マスコミの中でも取材対象者との距離は近い。営みは地域産業を衰退させないようにとった生き残り策。五輪の勝敗よりもその後の方が大切だと地域に伝えた番組。世界一を目指す日本にはリーダーが必要で６０歳代と３０歳代の橋渡し役のリーダーを濃く描いた。

●あらすじ

東京都大田区は、町工場の集積地。区内中小製造業が国産初のボブスレー競技用ソリを作り、冬季五輪等の大会で世界に対して我が町のモノづくり技術をアピールしようというのが「下町ボブスレー」のプロジェクト。１号機ソリの開発、製造過程、日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟との関係性を追いながら地域にとっての「下町ボブスレー効果」とは何かを見せる。また、選手と団体、それに作り手が手を組み、第一段階の目標ソチ五輪出場を目指す。もともとニュース番組「デイリー大田」でニュースとして取り上げていた話題。

市民･学生･自治体部門

関西大学・映像制作実習

マイホーム

◎演出／澤田亜紀

[27分]

●制作意図

淀川の河川敷には所々に手作りの「家」が建っている。小屋と呼ぶのが憚られるほど飾り付けられ、手入れが行き届いている。地方都市から出てきた私は、初めて車窓からこの家々を眺めた時、その不思議な光景に目を奪われた。それがホームレスの人々の住処だと知ったのはずっと後のことだ。社会制度が整っているはずのこの国で、なぜ、彼らはここでの生活を選んだのか。そこに住む人を訪ね、その暮らしぶりを見せてもらった。

●あらすじ

淀川の河川敷に住む「山下さん」と「佐藤さん」の日々の生活を追う。また、ここで暮らすようになった経緯、苦労話、将来のことなどを聞く。

市民･学生･自治体部門

国際環境NGO　FoE Japan

空に溶ける大地

◎制作／柳井真結子
◎演出／中井信介

[28分]

●制作意図

フィリピンのイサベラ州におけるバイオエタノール事業は当初、国連の認証するカーボン・オフセットであるクリーン開発メカニズム（CDM）の候補として提案されており、地球温暖化対策としても期待されていました。環境に優しいと謳われるバイオ燃料やカーボン・オフセットですが、現地の環境や社会に負の影響を与えてしまっている実態を伝えます。

●あらすじ

2010年に伊藤忠と日揮がバイオエタノール事業への参画を決定し、フィリピン・イザベラ州に進出して以来、のどかな農業地帯は一変した。もともと先住民族や農民が長年にわたって、米、コーン、バナナ、野菜などの生産性の高いものを栽培してきた土地が、バイオ燃料事業用のサトウキビ栽培に作物転換されているのだ。農民たちの多くは土地権利書等を持たないため、その弱みにつけこみ、個人名義による変則的な土地権利書の発行などにより、様々な形態の土地収奪が起こっている。また、労働者の事故、エタノール精製工場からの環境汚染など、現地住民は、さまざまな被害を受け生活を脅かされ、混乱が広がっている。

市民･学生･自治体部門

法政大学　映像制作実習

その妹
～知的障害者を家族に持つということ～

◎制作／中西菜摘
◎演出／中西菜摘

[17分]

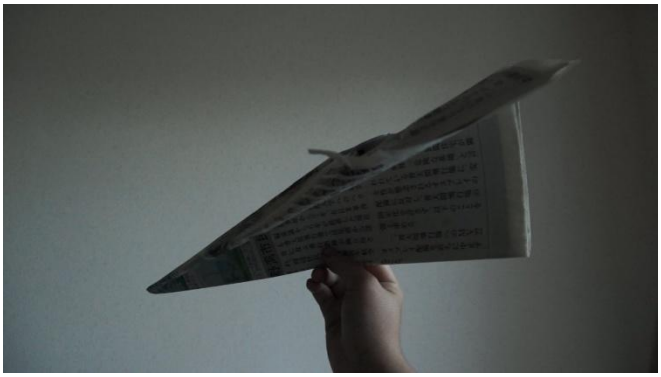
●制作意図

『きょうだい児問題』を知っていますか？『きょうだい児問題』とは、障害者の兄弟姉妹が親からの愛情不足を感じ、ストレスを溜めこんでしまうという問題です。本作では「きょうだい児」として育った私の母にスポットを当て、年を重ねても癒えることのない傷に触れることで、問題への認知が広がれば、母の心の傷が少しでも軽くなればと撮影しました。
「障害者の妹」であるが故に、あらゆることを我慢してきた母。父親とのわだかまり。姉への嫉妬。そんな母の娘である私から、母へ。「だいすき」が伝わるように一生懸命、作りました。

●あらすじ

家族から逃げるように、上京した。
福祉施設を経営する祖父、障害者の叔母、ふさぎこんでばかりの母。そんな家族が「嫌い」だった。けれど、どこか「好き」だった。
逃げ道にしていた家族と、母と、真正面からぶつかってみよう。
一般的な家庭と、どこかちがう。『私の家族』にカメラ越しで向き合った、大学３年の夏。そんな１７分間のドキュメンタリーです。

市民・学生・自治体部門



成安造形大学 塚原真梨佳

GrayZone

◎制作／塚原真梨佳
◎演出／塚原真梨佳

[12分]

●制作意図

テレビや新聞では、よく声高に米軍基地反対が叫ばれ、沖縄県民の総意であるかのように報じられる。けれど、私の知っている沖縄の声は少し違う。「無い方が、いいけれど・・・」という歯切れの悪い言葉の後ろに続く県民の複雑な思い、基地と共に生きる沖縄の複雑な現実を見つめ直す。

●あらすじ

2012年8月。オスプレイ配備に揺れる故郷沖縄を取材したドキュメンタリー。オスプレイ配備をきっかけに米軍基地と共に生きるとはどういうことかを、両親や友人との対話を通して見つめ直す。私達は基地とどう生きていけば良いのだろう。

市民・学生・自治体部門

2012年OurPlanet-TV秋期生　デモ割チーム

“デモ割”うまれたよ

◎制作／ふくしまゆみこ
◎演出／ふくしまゆみこ、他

[18分]

●制作意図

地元をこよなく愛する女性たち。地元の脱原発デモを企画する中で、どうせデモの後に飲むなら、皆に大手のチェーン居酒屋ではなく脱原発に理解・協力してくれる地元の良心的なお店に行ってほしい、という想いが“デモ割”という形になり各地に広がった。原発や大企業の補助金に頼らなくても地元でお金が回り活気のある地域経済であれば、原発事故もなかったという想い。デモ参加者と地元のお店をつなぎ、持続可能な地元に愛されるデモを創りたい、原発のことを気軽に話せるコミュニティの場にしたい、という想い。眉間に皺寄せ反対活動を叫ぶのではなく、広く地域に愛されるような明るい市民活動。Our-PlanetTV２０１２年秋期生作品

●あらすじ

東京・杉並のユニークな脱原発デモから生まれた、デモが終わった後にお店に行って「デモに参加してきたよ！」と言うと割引きや一品サービスなどをしてもらえるしくみ、“デモ割”。デモ割を企画した“デモ割シスターズ”による誕生秘話や、デモ割に協力したお店の人たちの意図や想い。デモ割を一面トップで報じた東京新聞の記者への逆インタビュー。東京・中野や千葉・船橋、北海道から大阪・福島区から沖縄など他地域へのデモ割の広がり。飲食店だけでなく、弁護士事務所やフットケアサロンなど他業種への広がり。デモ当日のデモ割交渉やデモ割店の様子、参加者の声。地域経済も巻き込んだ今どきの明るく元気な市民活動を追った。

市民・学生・自治体部門

中央大学FLP松野良一ゼミ

ノネコの引越し作戦
～海を越えて命を守る～

◎制作／大谷観
◎演出／岡田紗由香

[10分]

●制作意図

小笠原村に住むノネコは他の生態系を崩すために、ノネコの引越し作戦が行われました。その活動を行ったのが獣医師の小松さん。小松さんは、はじめは強暴だったノネコを飼い猫までにします。ノネコを飼い猫にするには多くの人の力を必要とします。引越し作戦にかかわる人の思いと、ノネコが飼い猫になるまでを描きました。

●あらすじ

東京都小笠原村では、ノネコ問題が深刻になっています。外来種であるノネコがカツオドリなどを捕食し、他の生態系が崩れています。
その生態系を守ろうと、1人の獣医師が東京都稲城市にいます。
彼は、ノネコを本土に送り飼い猫として育てる“引越し作戦”を展開しています。ノネコをめぐる人々の思いに迫りました。

高校生部門

大阪府立三国丘高等学校

地名を見つめる

◎制作／山家谷昌平
◎演出／山家谷昌平、瀧本善斗、谷野陸

[23分]

●制作意図

このプロジェクトは、当時、市名売却問題に揺れた泉佐野市に住む山家谷の「何を考えてんねや」という一言から始まった。
我々は議論するなかで、この問題を単なる泉佐野だけの問題として捉えるのはふさわしくない、と思い始めた。これまでにも、人間と地名との関わりが問題になったことがあったのではないか――。
そこで我々は、多方面に取材し、オムニバス的にまとめることで、地名と人間の結びつきの強さを浮き上がらせようと試みた。
『地名を見つめる』とタイトルをつけたが、実は我々が見つめていたのは、地名の向こう側にいる「人間」そのものだった。取材を終えた今、「地名」の奥深さに感動すら覚えている。

●あらすじ

大阪府泉佐野市の市名が売りに出されたニュースが世間を騒がせたのは、2012年3月のことだった。以降、改めて「地名」というものに注目が集まっている。
そこで我々は、様々な観点から地名を見つめることにした。地名変更の問題とそこに住む人たちを見つめた兵庫県宝塚市の例、地名と自然災害の関わりを示す兵庫県宍粟市の崩落地名、行政上の問題が地名の問題に矮小化された滋賀県の近江八幡と安土の合併問題――。
関西の3つの事例を取材していくと、そこには、人間の営みと地名との深い関係があることに気付かされた。

高校生部門

白陵高等学校

なま部の日常

◎制作／池田ひなた
◎演出／池田ひなた

[18分]

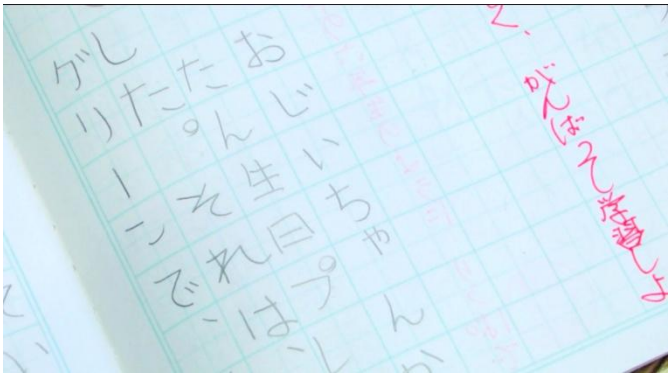
●制作意図

我らが白陵中学校・高等学校の部活といえば、生物部。文化祭では葉脈づくりや金魚すくいなど、外部からの参加者も楽しめるイベントを数多く開催し、例年、展示部門の１位を勝ち取っています。しかし、日頃の活動を知っている人はあまりいません。生物部員の日頃のイメージを聞いてみると、「網」と答える人も。生物部へ入るために白陵へ入学する人もいる中、生物部はどんな活動をしているのか。そして、「網」とは何なのか。生物部の活動とともに、生物をこよなく愛する彼らに迫りました。

●あらすじ

生物部は月１回、日曜日に近くの川へ調査に出かけます。部員たちの間では「加古調」の名で親しまれる、加古川調査。そこでは、加古川の上流・中流・下流の各地点で水質調査を行い、生息している生物を確認、記録していきます。この調査に数年前から参加している国土交通省の方や、生物部を引っ張っている部長、北川君のお母さんにインタビューし、部員たちの生物への熱意が感じられました。その調査に同行すると、彼らなりの生物への思いまた、先生方が生徒に学んでほしいと考える命の大切さを見ることができました。

高校生部門



奈良女子大学附属中等教育学校・奥田組

おじいちゃんと私

◎制作／鮫島京一
◎演出／奥田菜月、上田未来、
　　岡内智、東昌美秀

[11分]

●制作意図

　どのような人生であれ、語る価値のある物語である。それは、文学であり、歴史であり、音楽である。この世に二つとない人生の物語には、崇高な意味が隠されている。
　高校2年生の私たちは、人生の作り手になる準備をすすめている。期待があり、不安がある。なかなか描けない。ならば、先人に学ぶことからはじめてみよう。祖父母が創りあげてきた物語を聴くのだ。かれらの内面やかれに影響を与えてきた現実のもつ意味を想像し、理解する。自分が感じ考えたことにかたちを与え、あなたから受け取ったと伝える。祖父母の人生を映像作品にするのである。その世界に多くの人を招き入れたい。未来をともに生きていくために。

●あらすじ

　あの日のことはよく覚えている。それは坂道だった。近所に住む長濱さんに声をかけた。「おじいちゃん」「なっちゃん」と呼び合う仲になった。家族ぐるみのつきあいへとひろがっていった。アルバムをめくるとそこにはおじいちゃんの姿がある。おじいちゃんは私の成長を見守り続けてくれている。あれから11年、私は高校2年生になった。ふと立ちどまってみれば、おじいちゃんがどのように生きてきたのか、私は知らないことに気づく。おじいちゃんは、私との出会いをどのように思っているのであろうか。おじいちゃんはもう92歳。残された時間は少ない。二人の出会いとその後の交流の軌跡を記録に残しておこう。かくして本作品ができあがった。

高校生部門

埼玉県立川越高等学校

もう一つの卒業式

◎制作／松本拓海
◎演出／岡田徹平

[9.5分]

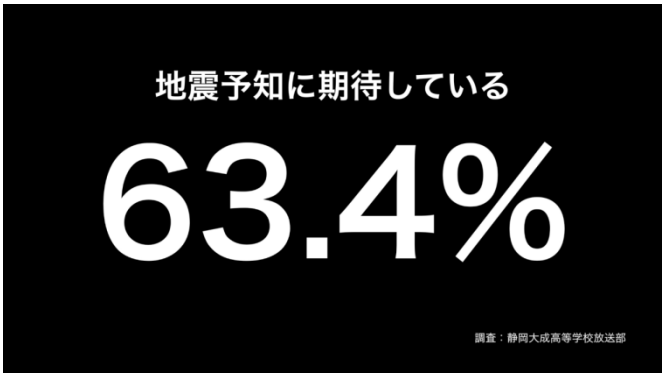
●制作意図

平成24年暮、埼玉県は退職予定者の早期退職を募りました。この制度には退職金が上乗せされ110人の教員からの応募があったようです。知事のコメントやニュースでは「教員にあるまじき行為」ということで報道されました。また、制度を運用する時期が悪く行政の不徳を言う人もありました。
実際のところはどうなのかを先生方を追うことで確かめて見るという趣旨で映像を作りました。本校でも3人（校長を含む）の定年退職者がいましたが、皆最後の教員生活を全うしようとしているようでした。早期退職についての結論は出ませんでしたが、最後まで教職を全うする素晴らしさは伝わってきました。

●あらすじ

早期退職のニュースがあってから、生徒および退職の先生方がどのように考えているかインタビューしました。そして2人の先生方の最後の授業を収めました。男子校なので地味で無骨ではありますが、それぞれの感謝の気持ちが表れていました。３学期の終業式、校長の話の後のいつもの校歌斉唱は、応援部や生徒が肩を組み3人の先生への感謝の校歌とエールをしました。これ私たちにとってはサプライズでした。
後で先生方はこれがとても嬉しかったとおっしゃいました。その後学校近くの神社に３人がお礼をするというシーンで終わっています。

高校生部門



静岡大成高等学校

関係官庁に聞く
地震に関する二つの疑問

◎制作／白井友稀
◎演出／生子里紗

[16分]

●制作意図

来る来ると云われ続けた東海地震は、未だ発生していません。そんななか、二年前の東日本大震災での津波災害は、改めて津波被害の恐ろしさを私たち県民の心に焼き付けました。静岡県は、東海地震・南海トラフ巨大地震の震源地を近くに持ち、最大震度7、そして早いところで2,3分後には津波が到来するという環境下にあります。それだけに、激しい揺れの直後に津波に襲われる沿岸部の人たちからは、地震予知に期待する声は少なくありません。しかし、昨今地震学者間では、予知に対する疑問の声も高まってきています。今の地震予知に係わる研究はどこまで進んでいるのか、そしてその限界はあるのか、直接関係官庁に取材を行いました。

●あらすじ

静岡県は、東海地震の予知体制が確立しているにも係わらず、2009年の静岡沖地震は、予知することができませんでした。最近では地震学者間でも予知に対する疑問の声が上がっています。しかし、二年前の東日本大震災と昨年内閣府から発表された南海トラフ大地震の被害想定により、静岡市の沿岸部にお住まいの方は、再び地震予知に期待を寄せています。私たちは、地震予知の現状と限界を確かめるべく、気象庁に直接取材を試みました。その後、南海トラフ大地震の被害想定を作った内閣府にも、津波の被災マップを中心に、疑問や不安について、沿岸部の住民の方々に代わって直接取材を行いました。

高校生部門

福岡市立野間中学校

カバンが重い

◎制作／徳永真奈
◎演出／緒方ゆい

[6分]

★ この作品は中学生の作品の為、暫定的に高校生部門として扱っています。

●制作意図

登下校中の生徒達の中から「カバンが重い」という声が聞こえます。そこでなぜ重いのか，原因やその解決策はないものかと考えてみました。また，カバンを軽くすることで学校で問題となっている「置き勉」をする生徒も減っていくのではないかと考えました。先生に訴えたり，その影響を調べたりすることで問題の解決を試みました。

●あらすじ

生徒達が心の中で思っている学校への不満「カバンが重い」という問題を解決するため，カバンの重さを計ったり，放送で訴えたりするなど，部員で解決策を考えていきます。素の努力がみのり，先生方が一日だけでしたが，体操服で登校することを許してくださいました。また，生徒達の間でも変化が出てきています。解決するのが難しい問題のため，一番良いと思われる解決策はまだ見つかっていません。しかし，今後も他の学校での取り組みなどを参考に，カバンが重いという問題の解決に向けて追求してみたいと思います。

「地方の時代」映像祭　コンクール参加状況

■川崎開催（1981年～2001年）計2545作品

年度	部門別内訳						総数
	放送局			自治体・CATV局			
	NHK	民放	小計	自治体	CATV局	小計	
1981	23	57	80	24	5	29	109
1982	22	52	74	25	1	26	100
1983	26	44	70	26	4	30	100
1984	31	49	80	23	2	25	105
1985	36	45	81	40	2	42	123
1986	35	48	83	45	1	46	129
1987	37	53	90	28	4	32	122
1988	24	42	66	33	4	37	103
1989	29	50	79	21	8	29	108
1990	40	51	91	21	8	29	120
1991	30	50	80	28	7	35	115
1992	33	55	88	24	15	39	127
1993	30	42	72	36	15	51	123
1994	34	53	87	35	14	49	136
1995	35	51	86	37	10	47	133
1996	40	54	94	35	16	51	145
1997	42	64	106	32	12	44	150
1998	37	55	92	26	14	40	132
1999	40	51	91	27	17	44	135
2000	37	42	79	25	16	41	120
2001	34	34	68	28	14	42	110

■川越開催（2003年～2006年）計433作品

年度	部門別内訳						総数
	放送局				市民・自治体	高校生	
	NHK	民放	CATV	小計			
2003	25	44	4	73	27	14	114

年度	部門別内訳							総数
	放送局			市民・自治体・CATV局			高校生	
	NHK	民放	小計	市民自治体	CATV	小計		
2004	32	40	72	23	8	31	14	117
2005	35	37	72	10	3	13	7	92
2006	36	45	81	15	8	23	6	110

■大阪開催（2007年～本年度）計1222作品

年度	部門別内訳								総数
	放送局			一般				高校生	
	NHK	民放	小計	市民・自治体	CATV	学生	小計		
2007	43	47	90	9	6	3	18	12	120
2008	35	49	84	7	4	3	14	17	115
2009	33	43	76	6	6	6	18	19	113

年度	部門別内訳								総数
	放送局			CATV	市民・学生・自治体			高校生	
	NHK	民放	小計		市民・自治体	学生	小計		
2010	39	63	102	33	11	34	45	16	196
2011	33	63	96	39	15	30	45	18	198
2012	41	82	123	40	18	23	41	18	222
2013	36	80	116	56	20	40	60	26	258

■参加作品総合計　4200作品